平成 20 年第 1 回日本生物物理学会運営委員会議事録
日時：2007 年 12 月 23 日（日）12：00～
場所：パシフィコ横浜 4 階 G 会場

出席者：曽我部，豊島，神取，木寺，栗原，高橋，徳永，由良，相沢，伊藤悦朗，佐甲，貞包，辰巳，船津，山縣，川戸，神田（大），桐野，七田，石渡，永山，河合，神田（律），関（敬称略）

報告事項：
１．平成 19 年度年会報告（川戸）
学会参加者は事前，当日を合わせて予定の 1800 名を上回った。また，懇親会参加者は，予定人数 620 名を下回る約 550 名であった。その他，ランチョンセミナー数の 18 は予定を上回り，企業展示もスペースを全部埋めることが出来た。結果として，収支は赤字にはならない見通しとなった。今回，一般口頭発表を行ったわけであるが，心配した各会場での映写トラブル等は報告されていない。ただし，一般口頭発表を演者が忘れているという事例が２つあった。
この報告に対し，国際会議場であるパシフィコ横浜で行い，しかも会場数が必要な一般口頭発表も行って赤字でないことは素晴らしいという意見があった。年会実行委員からは，実行委員の先生方が尽力したおかげであること，1800 名規模の年会を開く場合は，関東地方ではパシフィコ横浜しかないこと，一般口頭発表が無ければ今後も国際会議場で年会を行うことは可能であるとの追加報告がなされた。

２．平成 20 年度年会準備状況（神田）
基本的には平成 19 年度第 6 回運営委員会で報告したとおりである。前年度年会運営委員から話を伺い，収入と支出に関して若干の変更がある。先ず収入に関して，参加費を横浜年会と同額にすることとした。これにより収入が約 100 万円増える見込みとなる。また，懇親会は横浜年会の状況を考慮し 450 名を見込むこととした。支出に関しては，参加受付と会場のスライド等の係りを学生アルバイトではなく，専門の方に頼むこととした。これにより会場関係費が約 100 万円増加となる。また，弁当代約 50 万円を支出に組みこんだ。この結果，約 250 万円の黒字となる予定である。
これに対し，平成 19 年度のパシフィコ横浜のように，懇親会会場の周りに飲食店が多いと懇親会参加者を集めにくいとの意見があった。またこれに関連して，懇親会で何か余興を行ってほしいとの意見が出された。

３．平成 21 年度年会準備状況（桐野）
日時は 2009 年 10 月 30 日（金），31 日（土），11 月 1 日（日）の 3 日間とする。会場は，徳島文理大学・徳島キャンパスと隣接する「アスティとくしま」とする。補足として，会場へのアクセスは，タクシー利用の場合，JR 徳島駅から 900 円程度，徳島空港からは 3,000～3,500 円程度（30 分）である。徳島空港は東京，名古屋，福岡との直行便がある。また，新神戸からは高速バスで 2 時間半くらいである。「アスティとくしま」を利用することにより，ポスター会場と企業展示を 1 つの会場で行うことが出来る。懇親会会場は徳島プリンスホテル（名称が変更される予定）を考えている。また，懇親会では余興を考えている。
これに対し，地理的にランチョンセミナーと企業展示を集めることが難しい可能性があるとの意見

があった。これに関して年会実行委員から運営委員会でも積極的に協力してほしいとのお願いがあった。

議題：

１．新運営委員の役割分担と方針（曽我部）

資料（議 1）に基づき，新運営員の役割分担案が示され，審議の結果以下に示すように決定した。

役　割	20・21 年度（新）	19・20 年度（継続）
会　長	曽我部	
副会長	神取	豊島
広　告	伊藤	樋口
経　理	船津	樋口
出　版	辰巳	由良
年　会	山縣	木寺
研究体制（学術会議）	永山	栗原
庶　務	伊藤	高橋
外交・国際交流	永山（片岡）	（曽我部）
企画・啓蒙活動	佐甲	徳永
ホームページ	相沢	関
男女共同参画・若手	山縣、貞包、相沢、船津、佐甲	栗原、高橋
書　記	貞包、相沢	（関）
選挙管理委員長	辰巳	
物理学会関係	貞包、石渡	徳永
賞・助成金推薦委員会	神取	豊島

その他付随する事項として，学術会議の生物物理分科会の委員長は自動的に研究体制担当としたいとの提案があり，承認された。現在は永山氏が委員長であり，研究体制担当となる。なお，委員長の任期は２年であり，来年９月に改選となる。また，物理学会関係担当は，貞包氏，石渡氏とするが，学会員のなかで適当な人材が見つかり次第，石渡氏と入れ替えることとする。また出版担当では，平成 20 年度の辰巳氏が邦文誌担当，平成 19 年度の由良氏が欧文誌担当であることが確認された。

２．Biophysics について（木寺）

前回の運営委員会で承認されたとおり，「Biophysics」の新しい編集委員長として石渡信一氏に依頼し了解を得たとの報告があった。邦文誌と同様に欧文誌「Biophysics」の編集委員会を設置し，委員の中には運営委員会と ABA から担当委員を入れることが提案され，承認された。

３．会誌編集委員・地区委員の選出（木寺）

選挙結果に基づき各委員候補に打診したところ，全員から了解を得たとの報告があった。従って，編集委員・地区委員が決定した。また，邦文誌編集委員長の七田氏より副編集委員長に出村誠氏にお願いし，本人の了解を得たとの報告があった。これについて審議し，承認された。

下記に編集委員を記す。

■平成 20・21 年度編集委員

富重道雄（東大院工）
児島長次郎（奈良先端大）
高野光則（早大理工）
金城政孝（北大院先端生命）
市川一寿（金沢工大情報）
辰巳仁史（名大院医）

出村　誠（副編集委員長）

■平成 19・20 年度編集委員

光岡　薫（産総研）
太田元規（東工大）
村上　緑（名大院理）
山崎昌一（静岡大）
小松崎民樹（神戸大）
内田　毅（北大）

■平成 20 年度編集地区委員

北海道地区　：宮津　基（旭川医大）
東北地区　　：福岡　創（東北大多元）
関東地区　　：上村慎治（東大院総合）
中部地区　　：須藤雄気（名大院理）
関西地区　　：北原　亮（理研）
中国四国地区：大西浩平（高知大総合）
九州地区　　：小松英幸（九工大情報工）

４．平成 20 年度分野別専門委員の選出（由良）

資料（議 4）に基づき，選出法の説明がなされた。1 つの分野に対し第１位の得票数が同数の場合は若手を優先した。また，同一人物が重複して複数の分野で投票数第 1 位の場合は，１つを残して，残りの項目は得票数第２位のものを選出した。候補があがらなかった分野については前任者をそのまま選出した。その後，選出された委員リストをもとに審議され，その結果承認された。

その他，分野別委員は邦文誌等でのレビュー記事を作る際の貴重なデータベースとなる。他で使いやすいリストを作る必要がある。ＨＰでメールアドレスなどの詳細な情報を提供してはどうか。国際的にはこれまでも非常に有用であった。不適切なキーワードがあるなどの意見があった。

５．税務署への報告について（曽我部）

12 月末で会計を閉めて，２月に千種税務署へ届け出る予定である。２月に第２回の運営委員会を予

定しているのはこのためである。

６．法人化 WG について（曽我部）

税金等の関係などから，新法人になることがよいと考えている。今後ワーキンググループを立ち上げ，前向きに検討をしていきたい。ワーキンググループのメンバーは会長の一任でお願いしたい。この提案は承認された。

連絡事項：

１．次回運営委員会について

2008 年 2 月 9 日（土）13 時～名古屋市公会堂

（11 時より出版委員会，男女共同参画・若手問題検討委員会開催）